



# 太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより  
令和7年度 1月号 (第11号)  
令和8年1月8日 発行

## 【学校の教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心をもち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

学校は 「勉強をするところ」「友達と仲良くするところ」「安心・安全なところ」

## 【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

## 努力の水

校長 藤田 昌一

皆様には、よい年を迎えられたことと存じます。本年もよろしくお願いいたします。

＊

2学期に、「勉強や運動などで、頑張っているようになったことや、記録などが伸びたこと」を掲示するコーナーを、校長室前に設置しました。その一部を紹介します。

○さかあがりことができました！ずっとまえかられんしゅうしていました。  
○てつぼうで空中前回りできれいにまわれた。  
○かんじミニテストで100点がとれるようになりました。  
○かけさんの6のだと7のだんができるようになった。  
○ときわっこコンサートのリコーダーを1回もまちがえずにふけた。  
○楽器で幅広い音が出せるようになった。 …等

何か新しいことができるようになるためには、一定の努力が必要です。しかし、毎日の努力の成果は、毎日少しずつ実感できることはなく、ある日、突然、一気に表れることがほとんどです。(皆様も、初めて自転車に乗れた時、25m泳げた時、鉄棒ができるようになった時、楽器で曲が演奏できた時などが思い浮かぶことと思います。)

私は、このことを「努力の水」という言葉で子どもたちに説明しています。

＊

児童のみなさん、今、できるようにしたいこと、頑張っていることはありますか。だけど…

「がんばっているのに、漢字のテストで間違える。」「いくら勉強しても、テストの点があがらない。」「練習しても、練習しても、できるようにならない。」ということはありませんか。

「努力」は、水槽のようなものに水をためて、溢れたとき、「できた」「伸びた」「わかった」「点があがった」となります。(図1)しかし、そのたまっている様子は、自分には分かりません。(図2)

「逆上がり」を例にします。

逆上がりの練習をしても、すぐにはできるようにはなりません。Aさんは、コツを教えてもらったり、友達に手伝ってもらったり、補助の板を使ったりして、自分のことから練習をしました。しかし、今日もできません。次の日もできません。1週間たっても、1ヶ月たってもできません。Aさんは、「もう嫌だ。どんなにがんばっても自分にはできない。」と言って、練習をやめてしまいました。

このAさんの努力は、無駄だったのでしょうか…？ 実は、Aさんの「努力の水」は、ここまでたまっていました。(図3)もう少し頑張れば水が溢れたかもしれません。

今、努力していることは、水が溢れるまで続けてください。溢れる日を信じて、水をため続けてください。

＊

今年も、多くの子どもたちの「努力の水」が溢れる一年にしたいと思います。



図1

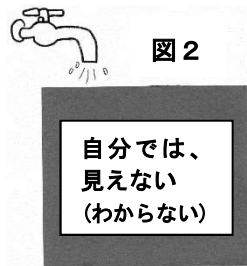


図2

自分では、  
見えない  
(わからない)



図3